

がんばれ！
北海道

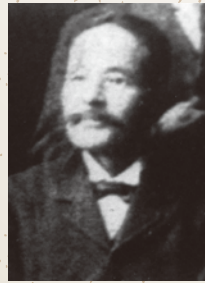
開拓の群像特集

合田 一道



歴史から見えるもの (24)

白虎隊の生存者、電信に尽くす 飯沼貞吉



晩年の飯沼貞吉

朝敵とされた
会津藩は、新政
府軍の猛攻を受
け、籠城戦の末
に降伏しまし
た。この戦いで

白虎隊の少年たちは集団自決に走りますが、ただ一人生き返ったのが飯沼貞吉です。その貞吉が札幌に移り、五年間も暮らしていたのを知っていますか。

貞吉は会津藩士の次男に生まれました。藩校日新館に学び、十五歳で上級の止善堂に進みます。

慶応四年（一八六八）二月、戊辰戦争が起こり、会津藩は軍制を改め、年齢別に玄武、青竜、朱雀、白虎の四つにわけました。白虎隊は十六、七歳の少年で組織されますが、十五歳の貞吉は年齢を一歳多く偽り、白虎隊士中二番隊に入つたのです。

八月二十二日、新政府軍が国境を突破して攻めてきました。迎え撃つ白虎隊は、大人の部隊とともに戸ノ口原に出陣しました。その夜から

雨になり、握り飯ひとつ食べただけの少年たちは、腹を空かせて夜明けを待ちました。

二十三日早朝、濃霧を突いて新政府軍が襲撃してきました。銃弾が乱れ飛び、白虎隊の少年たちは助け合いながら溪谷を彷徨い、暗闇の灌漑用水路をくぐり抜けて、飯盛山の山腹に出ました。

そこから眼下を見て少年たちは息を呑みました。城下は砲弾が飛び交い、火炎が立ちのぼり、鶴ヶ城は黒煙に包まれていたのです。少年たちは絶望し、はるか天守を伏し拝み、次々に喉や腹を割いて死んでいきました。

貞吉は家を出る時、母が着物に縫い込んでくれた短冊を取り出し、何度も読みました。
梓弓向ふ矢先ははげしくも ひくな返しな武士
の道 貞吉は短刀
を抜き、力いつぱ
い喉に突き刺しま
した。だが失敗し
たので、刀の柄頭
に石を当て、ツツ
ジの枝を両手でつ
かみ、渾身の力を
込めて前に伏せ、
そのまま意識を失
いました。



白虎隊の自決を報じる新聞「天理可楽佈」

どれくらい時間が過ぎたのか、自分を呼ぶ声が聞こえ我に返つた貞吉は、危うく救わ

れたのです。そして貞吉の話をもとに、わが国初の新聞「天理可楽佈」第三号（明治二年四月二十八日付）に初めて白虎隊の悲劇が報道されたのです。自決から八カ月後でした。

貞吉は以後、貞雄と名を改め、東京に出てわが国初の電気通信専門学校に学び、十八歳で通信省に入り、電信線施設の仕事を担当します。日清戦争が起こると朝鮮半島に赴き、電線仮設の仕事をしました。

明治三十八年、五十歳の時、通信省札幌郵便局の工務課長として赴任しました。日露戦争に勝利して樺太が日本領土になると、道内の電気通信網は急速に拡大され、貞吉は電話交換機の取り替え工事や電信電話の架設、無線電信局の建設などに携わりました。

札幌で物産共振会が開かれた時は会場に公衆電話を取り付け、利便を計りました。

謹厳、寡黙な人で、いつもワイシャツにネクタイをしていました。宴席で酔つた部下に迫られ、一度だけ喉の傷を見せたといいますが、触れられたくない傷痕だったのでしょうか。

貞吉が住んでいた鴨々川のほとりに「飯沼貞吉ゆかりの地」の碑が立っています。

◆プロフィール◆

昭和九年（一九三四）、空知郡上砂川町生まれ。北海道新聞に入社し、道内各地を回る。在職中からノンフィクション作品を発表。「定山坊行方不明の謎」で北海道ノンフィクション大賞を受賞。退職後は札幌大学文化学部講師。著書は『日本史の現場検証』人間登場！北の歴史を彩る『大君の刀』など。